質問事項に対する回答

1　最終D案となった場合、大人の足でも家から中学校まで1時間かかるため、送迎バス等の検討を希望します。

→通学支援としては、主にスクールバスの運行を検討しています。通学支援の基準として4Km以上という国が示す基準を掲載していますが、今後、実際に統合することや、統合の場所が決まりましたら、PTAや学校関係者などが集まった学校再編準備委員会の設置を予定していますので、その中で、通学路の設定や安全対策、スクールバス等の通学支援策についても具体的に検討していくこととなります。

2　統合案について、以下の3点（スクールバス・敷地および周辺道路・将来の統合計画）について質問いたします。

①　スクールバスの運行費用と保護者負担について

どの統合案が採用された場合でも、スクールバスの運行費用は全額市が負担されるのでしょうか？保護者の金銭的負担（利用料など）が発生する可能性はありますか

→基本的には個人負担を求めることはないと考えています。

②　東小学校の敷地拡張および周辺道路の安全対策について

3校統合案において東小学校への増設が提示されていますが、現在の敷地は決して広いとは言えず、周辺道路も狭い状況です。児童数の増加に伴う校庭の狭小化への対応や、通学時の交通安全対策（道路拡張や手配など）について、どのような対応を予定されていますか。

→周辺道路の拡張予定は現時点でありませんが、統合の場所が決まりましたら、通学路の設定や交通安全対策などについても具体的に検討していくこととなります。現時点で保護者の送迎スペースまでは検討していませんが、スクールバスの転回場所なども含めて、校舎の設計を行う中で検討していく必要があると考えています。

③　将来的な3校統合への推移と増設について

仮に今回は2校統合で決定した場合でも、将来的に3校統合へ移行する可能性が高いと考えております。今後さらに児童数が減少した場合でも、東小学校には増設する計画なのでしょうか。

→3校が統合した場合の児童数は、ご指摘のとおり減少していくことが予想されます。実際の増築の規模等については、今後の設計の中で、最新の推計を参考にしながら決定していくとこになります。また、特別支援学級の教室数が増えており、そうしたことも考慮しながら検討してまいります。

3　小中一貫教育について

①　②併設型と③連携型の違いとは？小学校も中学校も同じ彦根市立で設置者は同じ彦根市ではないのですか？

→資料の表現がわかりにくいですが、図の中央②「併設型」は、パターンDを想定しています。パターンA、B、Cについては、小学校と中学校の場所が離れていますが、施設分離型の小中一貫型教育を目指すことになりますので、制度上は、パターンDと同じ中央の区分に入ります。③の連携型は私立や県立など設置者が異なる学校間での連携となります。
稲枝中学校区の場合は、施設併設型か分離型かのどちらかになりますが、いずれも小学校と中学校が完全に一つの学校になるのではなく、それぞれの学校に校長先生や先生方の組織は維持したまま、教育課程を一体的に編成し、連携を深めていくことを目指しています。

② 小中一貫教育になった場合の通学支援が受けられる地域の範囲はどこからですか？低学年のみなのか、６年生まで受けられるのか。

→今後、実際に統合することや、その場所が決まりましたら、PTAや学校関係者などが集まった学校再編準備委員会の設置を予定しています。その中で、対象地域や通学路の設定、安全対策、スクールバス等の通学支援策などについて具体的に検討していくこととなりますが、基本的には小学校1年生から6年生までが対象になると考えています。

③ 新校舎設置の場合、現在の3小学校の校舎はどうしていく？

→今後、統合の場所や時期がある程度決まった段階で、統合の準備を進める協議とは別に、市の他の分野の部局にも跨って組織を立ち上げ、また地域の方々の意向も尊重しつつ、学校跡地の有効な活用方法について検討してまいります。

④ 一貫校になっても学童保育は学校敷地内で運営してもらえますか？

→放課後児童クラブについては、同一敷地内での整備を予定しています。

4 この先の子どもの人数が減少になっていくのは事実であり、子どもたちの学校生活の中で人間関係などもあるので1クラスで運営していくと、双子学年、トラブル関係、不登校などに繋がるおそれもあるので、いずれ統合していくのもありなのかと思う。

→ご指摘のとおり、単級ではクラス替えができず、特に、少人数での単級になりますと、人間関係や相互の評価が固定化されやすいなど、子どもたちの学校生活への影響が懸念されます。また、学級の児童生徒数が少ない場合、協働的な学習に制約が生じるなど、本市が目指す教育活動に影響が出てまいりますので、早急に子どもたちにとってより良い教育環境を確保していく必要があると考えています。